



## 社長挨拶



当社グループは、2008年度より「中期経営計画（ポストフェニックスプラン）」に取り組み、経営指標を掲げて各種施策を推進してまいりました。しかしながら、経済情勢・外部環境の悪化が大きく、今後、早期改善の可能性も少ないことからプランの見直しを行っております。

このような環境下におきましても、「ポストフェニックスプラン」で掲げました「ハイグレード&情報メディアの三菱製紙」という独自のポジションを目指す基本方針は維持・継続してまいります。一方、企業は利益のみでなく様々な社会的側面においてもバランスのとれた責任を果たす必要があると認識しており、重要な経営課題としてCSRを位置づけております。今後、当社グループは生き残りをかけた『収益向上策』を実施するとともに、『CSR活動の拡大』を推進することを通じて企業価値の向上に努めてまいります。

昨年は「古紙パルプ配合率乖離」問題で関係者の皆様にご迷惑をおかけしました。深く反省するとともに、再発防止策の一環としてCSR推進体制を強化しました。また、関連会社を含めたグループ全体への展開も進めました。CSRは着手から3年目を迎え、弱点の補強や推進体制の整備から、特徴あるCSR活動の展開へと徐々に形が定まっております。ひとえに皆様からの暖かい励ましとご支援の賜と深く感謝しております。

「古紙パルプ配合率乖離」問題への反省および昨年度の取り組み実績をふまえ、今年度は、社会及び環境面に関する下記の取り組みを率先して進めてまいります。

### 1 特徴あるCSR活動の推進

古紙パルプ配合率乖離の問題に伴う環境貢献施策の具体化を進めております。とくに、エコシステムアカデミーによる環境教育、「森の町内会」活動を通じた間伐促進、社有林でのFSC森林認証取得に注力してまいります。

### 2 企業倫理、企業行動憲章に関する理解の促進

グループ全役員・社員を対象にしたコンプライアンス教育を実施しております。今後も継続して取り組みを進める予定です。

### 3 人権・労働に関する取り組み体制の推進

既存の「全社安全衛生委員会」に加えて、新たに「人権・労働委員会」を設置し、安全衛生以外の「人権・労働」に関する課題に取り組みます。

### 4 地球温暖化防止への対応

工場への廃棄物ボイラー導入、都市ガスへの燃料転換、太陽光発電の導入などにより、化石燃料由来のCO<sub>2</sub>排出量削減に努めてまいりました。今後、オフィス部門を含め、一層の削減に向けて努力をしてまいります。

### 5 社会貢献活動

本業を生かし、森林保全や循環型社会の構築に役立つ活動に注力いたします。また、活動を関連会社に広げるとともに、地域に根ざした社会貢献活動を推進してまいります。

本報告書により、三菱製紙グループの社会環境活動をご理解いただければ幸いです。今後、社会環境活動をより充実したものにすするため、皆様の忌憚のないご意見・ご感想をお聞かせ下さいますようお願いいたします。

取締役社長

鈴木邦夫

# 経営方針

当社グループは、2008年度からポストフェニックスプランに取り組み、各種施策を推進してきました。しかし、経済情勢は急激に悪化し、当面は大きく改善する見込みは少ないことから、プランの見直しを行っています。

ポストフェニックスプランで掲げた

- ・『ハイグレード&情報メディアの三菱製紙』という独自ポジションを確立し、業界トップレベルの収益性を確保する。
- ・印刷・情報用紙事業、デジタルイメージング事業、開発事業の3事業がバランス良く成長する企業体を構築する。

の『当社グループが目指す将来の姿』に変わりはありませんが、当面の環境下を当社グループが収益を上げ生き残っていくために、2009、2010年度（第145、146期）の2年に亘って『収益向上策』を実施し、『CSR活動の拡大』とともに企業価値の向上に努めていきます。

## 当社グループが目指す将来の姿

### 業界ポジション

「ハイグレード&情報メディア」の三菱製紙という独自ポジションの確立により業界トップレベルの収益性を確保

### 事業ポートフォリオ

印刷・情報用紙、DI事業、開発事業の3事業がバランス良く成長する企業体を構築

## 当面の課題に対する考え方

### 企業価値の向上

### 収益向上策

各事業が現在の環境下でも利益を上げられる体質の構築

- ・生産体制の見直し
- ・労務費削減を含むコスト構造改革
- ・合理的組織の構築
- ・新分野への挑戦による販売機会拡大

### CSR活動の拡大

- ・グループ全体への展開
- ・特徴ある活動の推進

### 従来

- ・弱点の補強と推進体制の整備